

東久留米市立東中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・文学的文章の心情の読み取り・情景の読み取りなどに課題がある。 ・漢字を書いたり、読んだり、多様な言葉を使ったりする語彙能力に欠ける。	・文学的文章では、心情を表す表現を押さえ、その表現に着目しながら理解させていく。 ・漢字テストや学期始めと終わりに漢字コンテストを行い、語彙能力の定着を図る。	・各単元後にワークの点検をする。（各学期5回程度） ・合格点を設け、各学期のコンテストについては再テストを合格できるまで行う。
社会	・資料の読み取りやグラフの作成についての理解が浅く、資料を使って表現する力が不足している生徒が見られる。 ・提示された資料を基に、自分の考えをまとめ、言葉で説明するのが苦手な生徒が多い。	・発表の機会を増やし、教科書の資料や地図を読み取り、発表させたり、ワークシートに記入させたりする。 ・自分の考えや意見を文章にまとめさせる機会を増やすとともに、失敗を恐れずに発言させる工夫をする。	・ワークシート・レポート等で、資料の読み取りやグラフの作成を要する課題や単元テストを設定する。（中単元に1回） ・ワークシート・レポート等で、資料を基に自分の考えを説明させる課題や単元テスト設定し、単元テストでは正答割合が8割以上の生徒が80%以上を目標とする。
数学	・課題解決に必要な知識について、内容をなんとなく理解しているが確実な定着には至っていない。 ・課題解決に向けて、今まで学んだ知識や技能を基にしながら、筋道を立てて考え、表現することが苦手な生徒が多い。	・課題解決に必要な知識（概念）について、意味もまとめさせながら定着を図る。 ・解決に必要な知識を確認しながら、何が分れば数学的に処理できるかをノートに書かせて発表させる。 ・思考の過程が分かるように、途中式及び何を基にして解決したかをノートに書かせる。また、思考の過程を、発表によって共有する時間	・問題集や計算練習ノート等で、問題解決に必要な内容について、ことばの意味や解説をかかせる。（正しく書ける生徒70%以上） ・思考の過程を、学んだ知識を基にして理由を示しながら表現できる生徒50%以上。 ・ノートやワークシートから、思考を整理することによって、次の学習への意欲につながったと判断できた生徒80%以上。
理科	・比較的自然環境に恵まれている地域で自然界に興味関心を持つ生徒は多い。しかし観察する姿勢や科学的思考が十分ではない傾向がある。 ・自然に目を向ける示唆を十分に授業の中で取り組みたい。	・身の回りの自然環境や生活環境を授業になるべく関連付けて関心を向けるよう工夫する。 ・理科の異なる単元学習内容でも自然環境や生活環境の関連付けを強めるよう努力する。	・観察レポート実験レポートなどを提出させる。授業ノートなどの点検を各学期に2～3回提出させ、その深度を探る。また、小テストを行い定着をはかる。 ・レポートの方法を生徒に身に付けさせ、その工夫を深めさせる。また、定着度をはかるため到達度を明示したい。
音楽	・歌唱・リズム創作に対して苦手意識を持っている生徒がいる。 ・音楽的な要素や楽曲の構成に注目し、積極的に表現活動に取り組めるようにする。	・基本的な技術が身につくように、繰り返し練習し自信をつけていく。 ・構成等わかりやすく、生徒が興味をひく楽曲を用いて学習する。ワークシートを工夫する。	・実技テストで課題を提示し、よかったところは自信につながるように伝える。 ・ワークシートの点検し、楽曲の理解、表現の工夫を感じられる生徒70%以上。
美術	・意欲的に取り組める生徒が多いが、授業形態が大机で行われていることもあり、他者の制作に気を取られ、集中できないことがある。 ・表現の活動を通して基礎基本を定着させ、中学美術の基盤を作る。	・個での制作の時間と、生徒同士で鑑賞をし合う時間をつくり、活動内容を明確にする。 ・ワークシートや資料集、ICT等を利用して基礎基本を学び、知識として学習した上で制作に取り組む、技術の習得を図る。	・各題材において発想構想の段階、制作過程、作品完成時に生徒同士で鑑賞し合ったり、意見交換ができる場を設ける。（各題材ごと） ・ワークシートを提出させ、生徒の理解度を確認する。また、実技テストにおいて8割以上の生徒が基礎基本を習得できるようにする。

保健体育	・意欲的に取り組む生徒と苦手意識を持つ生徒の二極化がみられるが、ルールやマナーを守って授業に取り組める生徒が多い。 ・運動に対しての興味関心に差があり、グループで課題を解決したり作戦を立てたりする協働学習を苦手とする生徒がやや多い。	・活動の楽しさを味わわせながら規範意識が身に付くよう、各単元で運動の特性やルール、マナーの指導を引き続き行っていく。 ・本時のねらいや取組内容を明確に示し、一人一人が考えながら、より意欲的に授業に取り組めるようにする。	・授業観察（毎時間） ・単元毎にノートの点検（学期に2～3回）を行う。 ・学習カードやノートの点検（月1～2回） ・未提出や内容が不足している場合は再提出を促す。
技術	・工具、機械、治具を有効に使用できない生徒が一部いるので、個別に対応する必要がある。安全に留意しながら指導していく。 ・木材加工を通して、木材の性質、加工方法、加工工具、機械の使用方法について安全に取り組んでいく。	・作業ポイントごとに説明を入れ、取り組みやすいようにする。 ・授業時にねらいや観点を話し、ポイントごとに説明を入れ、取り組みやすいようにする。DVD、タブレットで作業ポイント動画をいつでも再生して見られるようにする。	・作業行程ごとに課題の点検をする。作業記録表を毎回提出して作業内容と作業進度を確認させながら作業方法、工具、道具の使い方を身に付けさせる。 ・作品の点検（行程ごと） ・作業記録表（毎時間） ・作業内容（行程ごと）
家庭1年	・興味、関心、疑問を解決しようという意欲がある生徒がいる。反面、集中を持続させることが難しい生徒もいる。	・単元ごとに振り返りプリントにまとめ、内容を定着を図る。 ・内容について調べたり、自分の意見をレポートにまとめたりする。	・まとめたことを発表する。 ・繰り返し学習しながら知識の定着を図る。（8割の生徒を目指す） ・プリントの記述内容、振り返りカード、製作物の取り組みから確認する。（毎時間）
外国語	・学習した単語を口頭で話すことはできても、正しい綴りが書けない生徒がいる。 ・授業で用いた英単語や文構造を用いて表現することについて、個人差が大きく見られる。	・英単語に関する帯活動を取り入れ、低位の生徒であっても取り組めるようにする。 ・ペアでの活動を取り入れる。 ・ねらいを明確化した表現活動を取り入れる。ワークシートを工夫し、生徒の意欲を喚起する。	・単元テストや単語テストを実施する。8割の生徒が合格点を取れるようにする。 ・パフォーマンステストを実施する。テスト後の自己評価で、表現力が向上したと感じる生徒が7割以上を見極める。
道徳の教科	・多面的、多角的に物事をとらえ、自身の考えを深める経験が必要である。	・他の生徒の意見を聞く機会を設け、対話的な学びの機会を増やし、自分の考えを深められるようにする。	◎1時間の授業の中に、ペアやグループでの話し合いの場面や、意見発表の場面を取り入れ、様々な考え方に触れる機会をつくる。
の総合的な学習	・調べ学習では情報を収集することは出来るが、自分の考えをまとめたり、発表を工夫することが苦手な生徒が多い。	・SDGsや校外学習の調べ学習や事後学習のまとめ、発表会を行うことでまとめ方・発表のやり方を学習する。	・調べ学習の発表を視聴覚機材を活用し行い、確認する。